

えり も みさき
7.8「襟裳岬」

もり しんいち
森 進 一

きた まち かな だんろ
1. 北の街ではもう 悲しみを暖炉で
も はじ
燃やし始めてる らしい

在北方街道裡說 人們似乎已經把悲傷
開始弄到暖爐燃燒了吧

わ け わ こと なや うち
理由の分からない事で 悩んでいる内
お
老いぼれてしまうから

正當為莫名之事 而煩惱時
在不知不覺中 年華已漸逝去

だま とお としつき
黙り通した 歳月を

ひろ あつ あたた あ
拾い集めて 暖 め 合 おう

把默默經過的歲月 撿拾收集起來 加以暖和吧

えり も はる なに な はる
襟裳の春は 何も無い春です

襟裳的春天 是一無所有的春天

きみ にはいめ こーひー かつぷ
2. 君は二杯目だよな コーヒーカップに

かくざとう ひと
角砂糖を一つ だったね

你這是第二杯吧 你習慣在咖啡杯中
加一顆方糖吧

す き わずら
捨てて来てしまった 煩 わ し さ だけを

まわ
くるくる かき回して

將捨棄掉心煩的事 一起放入杯中
不停地來回攪拌著

とお す なつ にお
通り過ぎた 夏の匂い

おも だ なつ
思い出して 懐かしいね

想起來過去的夏天味道 很懷念耶

えりも はる なに な はる
襟裳の春は 何も無い春です

襟裳的春天 是一無所有的春天

3. ひびく 嫌 いや く
日々の暮らしは 嫌でも やって来るけど
しず わら
静かに 笑ってしまおう

即使不滿目前的生活狀態 它也還是會來
也要靜靜地笑吧

こと い こと
いじける事だけが 生きる事だと

か な す
飼い馴らし過ぎたので

因為我太慣養自己了

以為只要畏首畏尾就是生活

みがま はな
身構えながら 話すなんて

おくびょう
ああ 臆病 なんだよ

裝模做樣擺著姿態說話 啊 其實很膽小啊

えりも はる なに な はる
襟裳の春は 何も無い春です

襟裳的春天 是一無所有的春天

さむ ともだち たず き
寒い友 達が 訪ねて来たよ

えんりよ い あたた ゆ
遠慮は要らないから 暖まって行きなよ

寒冷的朋友 來拜訪了唷

不必客氣 過來暖和起來吧

9.10 「いい日 旅立ち」 ^{ひ たびだ} ^{やまぐちももえ} 山口百恵

1. ^{ゆきど まちか} 雪解け間近の ^{きた そら む} 北の空に向かい

我向著即將融雪的北方天空

^{す さ} 過ぎ去りし ^{ひび ゆめ} 日々の夢を ^{さけ とき} 叫ぶ時

我呼喊過往歲月的夢想時

^{かえ ひとたち} 帰らぬ人達 ^{あつ むね} 熱い胸を よぎる

我一去不回的人們 令我的胸口一熱

^{きょう} せめて今日から ^{ひとり} 一人きり ^{たび で} 旅に出る

我至少從今天起展開一個

^{にほん} ああ 日本のどこかに 啊 日本的某個地方

^{わたし ま} 私 ^{ひと} を待ってる人がいる

我一定會有人在等著我

^{ひ たびだ} いい日 旅立ち ^{ゆうや} 夕焼 ^{さが} けを 探しに

選個好日子出發 尋找晚霞

^{はは せなか} 母の背中で ^{き うた} 聞いた歌を ^{みちづ} 道連れに

帶著曾經在母親背上聽過的歌 一路同行

みさき はず しょうねん さかなつ
2. 岬の外れに 少年は 魚釣り

海岸的一角 釣魚的少年

あお すすき こみち かえ
青い 芒の 小徑を 帰るのか

會沿著碧翠芒草的小徑回家嗎

わたし いま おも で つく ため
私 は 今から 思い出を作る 為

現在開始為了創造堆砌回憶

すな かれき か
砂に枯木で 書くつもり “さよなら” と

我即將用枯木在海灘的沙子上寫下 再見

にほん
ああ 日本のどこかに 啊 日本的某個地方

わたし ま ひと
私 を待ってる 人がいる 一定會有人在等著我

ひ たびだ ひつじぐも さが
いい日 旅立ち 羊 雲を 探しに

選個好日子出發 尋找白雲

ちち おし うた みちづ
父が 教えてくれた 歌を 道連れに

帶著父親教我的歌 一路同行

にあほん
ああ 日本どこかに 啊 日本的某個地方
わたし ま ひと
私 を待ってる 人がいる 一定會有人在等著我
ひ たびだ しあわ さが
いい日 旅立ち 幸 せを 探しに
選個好日子出發 尋找幸福
こども ころ うた うた みちづ
子供の頃に 歌った歌を 道連れに
帶著兒時愛唱的歌 一路同行

11.12「ズンドコ^{ぶし ひかわ}節」氷川^{ひかわ}きよし

1.ズンズンズン ズンドコ

吱噠吱噠吱噠 吱噠哆叩

ズンズンズン ズンドコ

吱噠吱噠吱噠 吱噠哆叩

かせ ふ はな ち
風 に吹かれて 花 が散る

被風吹 花兒會 散落

あめ め はな ち
雨 に濡れても 花 が散る

被雨淋 花兒也會謝落

さ はな ち
咲いた 花 なら いつか散る

就是綻開的花 終究也會凋落

おな さだ こい はな
同じ定め の 恋 の 花

相同命運的戀花

む よこちょう らーめんや
向こう 横 丁 の ラーメン屋

對面 街巷的 拉麵店

あか こ ちゃいなふく
赤いあの娘の チャイナ服

那姑娘之紅色旗袍

めくば ちゃーしゅー
そっと 目配せ チャーシューを

悄悄地 眉目傳神 把叉燒

に さんまい
いつも おまけに 2.3 枚

總是 多加了 2.3 塊

ズンズンズン ズンドコ

吱噠吱噠吱噠 吱噠哆叩

ズンズンズン ズンドコ

吱噠吱噠吱噠 吱噠哆叩

あした あさって しあさって
2.明日 明後日 明々後日

明天 後天 明後天

か ころ かざぐるま
変わる 心 の 風 車

變化心情的風車(心情如風車)

むね なみだ あふ
胸 に 涙 が 溢 れても

即使 心中 淚水 溢流

かお だ おとこ
顔 にゃ 出せない 男 なら

在臉上 不能露出 若是男人

かど がそりん すたんど
角 の ガソリン スタンドの

轉角的 加油站

おいるまみ さ がみ
オイル 塗 れの お下げ 髪

油漬的 結髮辮女孩

なぜ まぶ いとき ば
何故か 眩 しい 糸 切 り 歯

為何 耀眼的 犬齒

こぼ えくぼ き
零れ 笑窪が 氣にかかる

溢滿的 酒窩 牽動人心

ズンズンズン ズンドコ

吱噠吱噠吱噠 吱噠哆叩

ズンズンズン ズンドコ

吱噠吱噠吱噠 吱噠哆叩

3. ^{つら}辛い ^{とき}時でも ^な泣き ^{ごと}言は

即使 痛苦時 牢騷話也

^{くち}口を ^{むす}結 ^んで ^{いちもんじ}一文字

絕口 隻字不提

いつか ^{かなら}必ず

總有一天 必定

^{ふるさと}故郷へ ^{にしきかざ}錦飾 ^って ^{かえ}帰るから

衣錦還鄉 所以

^{まも}守り ^{ふくろ}袋を ^だ抱き ^し締めて

將護身符 抱緊

^{くになま}お国訛りで ^{うた}歌うのさ

用鄉音 唱歌 啊！

^{にし}西の空 ^{そら}見て ^み呼んで ^よみる

西邊的天空 望著 試著呼喊

^{とお}遠く ^{やさ}優しい ^{かあ}お母さん

遠方 慈祥的 母親

ズンズンズン ズンドコ

吱噁吱噁吱噁 吱噁哆叩

ズンズンズン ズンドコ

吱噁吱噁吱噁 吱噁哆叩